神奈川県立平塚ろう学校　令和５年度第１回学校運営協議会　開催報告

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立平塚ろう学校における第１回学校運営協議会
開催期日	令和５年５月 30 日（火）
開催場所	神奈川県立平塚ろう学校　会議室
出席者	神奈川県立平塚ろう学校　学校運営協議会委員９名
次回開催予定日	令和５年 10 月 24 日（火）
問合せ先	平塚ろう学校　　副校長　水上 電　話　　0463-32-0913 ＦＡＸ　　0463-32-1646 電子ﾒｰﾙ　hirarou-sd@pen-kanagawa.ed.jp
議題	（１）　学校運営協議会運営計画について （２）　令和５年度学校経営について （３）　令和５年度不祥事ゼロプログラムについて
審議（会議）経過	（１）　学校運営協議会運営計画について →承認 （２）　令和５年度学校経営について 【意見】 ・Ｒ５平塚ろう学校グランドデザインと学校教育計画の学校のミッションが違っている。校長が目指しているのはグランドデザインの内容なのではと思う。学校目標の整合性が取れると良い。 ・学校教育計画の学校のミッションに「県内唯一の聴覚障害教育部門の…」とあるが、県内唯一ではない。昨年度も同様の指摘をしたので正すと良い。 【回答】 ・県教育委員会と進めていく。 →承認 （３）　令和５年度不祥事ゼロプログラムについて 【質問】 ・教員側の取組みなのか？子ども側の取り組みはないか？ 【回答】 ・子どもたちに対しては、人権教育、いじめ防止などの教育を行い、自分たちですぐに SOS を出せる取組は行っている。 【意見】 ・生徒指導提要が改訂された。参考にしながら取り組むと良い。

	・不祥事は毎日の楽しい学校生活を壊してしまうもの。たった一人であっても神奈川県の信用を壊してしまう。引き続きの取り組みを。 →承認 （４） 自由協議 【意見】 ・INCLUSIVE　HUB　湘南はスタートしたしたばかりで仲間を募っている。 ・特別支援学校の発信力が弱い。連携が取りづらい。その部分をサポートしたい。 ・神奈川県手話条例、手話を伝えていきたい。サッカーを中心にして手話を広めたい。PTA、OG などみんなを巻き込んでやっていきたい。 【意見】 ・平塚市は福祉の街。だが、聴覚障害者と市民がふれあう場は少ないと感じている。その機会をもつのが平塚ろう学校である。 ・就労支援登録者の中に聴覚障害者もいる。その中には、意見（自分の気持ち、考えを伝えること）を発することを諦めてしまう方も見られる。 ・会社側としてできるのは、ろうの文化を知ること。雇用促進法により、ろうの方の就職率は上がっていく。ろうの壁を取り払うためにもろうの文化を知り、発信することは重要。 【意見】 ・皆さんのもつ「ろう者」のイメージを知りたい。 ・「ろう者」と一言で言ってもな人がいる。アイデンティティーが確立されていることが大切。自分自身のことを理解できて自分が何者かわかっていなければ、自分の進む道を選ぶことはできない。 ・きこえる先生は、聴覚活用している子供を優先してしまう。きこえない先生を増やしてろう難聴のこどもと対等に話してほしい。 ・まだまだ課題はある。この声を PTA の役員とも共有していきたい。 ・聞こえない子どもを持つ、聞こえる親にも寄り添いたい。 【質問】 ・小学部の絵本の読み聞かせは行っているか？ 【回答】 ・昨年度から再開している。 【意見】 ・幼稚部段階からインテグレーションを進める傾向にあるようだが、

	個人的には反対。聴覚が良く、話ができても反対。コミュニケーションが確立されてから進めた方が良いと考えている。 【意見】 ・インテグレーションの時期を見極める必要はあるが、地域に出ていくことは良い。 【意見】 ・ろう者といっても一人ひとりちがう。社会に出てからどのようなことがあるのか、学校教育のなかで扱ってほしい。 ・自分は聞こえないということで様々な差別を受けてきた。運転免許、賃貸契約締結、などなど。全日本ろうあ連盟の働きかけで様々なことが変わった。 【質問】 ・卒業生の話を聞く機会はあるか？ 【回答】 ・本校の卒業生の話を聞く機会、卒業生以外のろう者の話を聞く機会を設けている。 ・Ｒ５年度学校目標の「進路指導・支援」に卒業生など聴覚障害のある社会人と接する機会を設定する、「教育課程　学習指導」にキャリアパスポートの活用を通して、と記されている。この通りであれば学校教育の中で取り組めているであろう。 【質問】 ・直接指導に当たっている職員は 11 人。 【意見】 ・ろう者が困っていることを地域に発信してもらえると良い。発信の場、方法はいろいろ。 ・民間企業として気になっている事がある。障がい者に限ることではないが、昨今我慢できない人たちが増えてきている。我慢できないとどのようなことにつながるかというと、退職、犯罪など。忍耐力をつけていくことが大切。学校では（学校というよりは教育委員会）乗り越える力をつけてほしい。 【意見】 ・大原地区はエリアが大きい地域。大原小、平ろうとは交流があるが、平塚中等とはつながりが薄い。校長自身が地域とのつながりと積極的に進めている。地域と学校の結びつきができると良い。 【意見】 ・市役所では手話通訳者を常時設置しているが、Ｒ４年度よりマイナス１名。手話の講習会を実施しているが、仕事として手話通訳を

	ということに繋がらない。 ・学校では、様々なコミュニケーション方法に取り組んでもらえると良い。